

## 2022年度 事業の総括と課題

### 【事業方針】

同窓会の目的を次の3点にまとめる。

#### 1. 会員相互の親睦交流

親睦交流の重要な行事であった「新入会員歓迎会&レイカ大津の集い」はコロナ禍の影響のため、4月の第38回定期総会のときに42期生の「新入会員入会式」のみに短縮して行った。この「新入会員入会式」では、役員紹介と自己紹介、記念写真の撮影に留まり、新入会員との交流は短時間になり、42期生からは支部活動と各部会活動が解り難いと指摘を受け、反省を要する結果になった。

2年間新年会を開催出来ていないことから、夏に「納涼会」の開催を検討し、開催案内を行ったが、新型コロナ第7波の影響から延期とし、11月14日(月)に「大津の集い」として懇親会を開催した。その「大津の集い」ではあらたに支部活動紹介の冊子(大津支部活動の手引き)を作成して41期生と42期生に配布するとともに説明時間を設けた。また、当日参加できなかった41期生と42期生全員に後日配布した。

11月22日(火)ドラゴンハットで開催された、同窓会9支部対抗グランドゴルフ大会に参加して団体と個人共に昨年度を上回る成績を残すとともに他支部との親睦交流につなげた。

#### 2. 諸活動を通じて地域社会の発展に貢献(5部会と1委員会)

活動に制約の多い年度ながら、各部会活動は積極的に取組み実績を残し、その結果を会報「かけはし」に掲載した。

「かけはし」のカラー印刷も継続することができ、継続的に見直しを進め、各部会活動の結果にも写真を挿入するとともに、活動予定を解り易くした。

「かけはし」の配布先の見直しを進め、県スポーツ課に配布を始めた。

又、文化部会では生涯学習センターと平和堂石山、アル・プラザ堅田の「イキイキふれあい祭り」に、県庁プレスで報道各社に案内を行い、新聞社やTV局の取材につながった。

#### 3. 母校の発展に寄与する

同窓会の取組みとして、平和堂店頭で募集案内のパンフレット配布を行った。

更に、文化部会と平和堂石山、アル・プラザ堅田で作品展示とマジック・紙芝居のイベント上演を実施して店内で募集要項を配布した。

サポートの会と連携して、募集要項の配布と自治会組回覧等を行うとともに、大津市公共掲示板に募集ポスターの掲示に取組んだ。

### 【重点施策】

次の5点にまとめる。

#### 1. 会員の確保

44期の学生募集は母校の発展に寄与する活動で、支部会員の努力もあり大津市から92名の応募になり65名の入学者を得た。

在校生の地域体験学習の紹介に積極的に取り組み、大津支部の活動参加に成果を出すことが出来た。

3月23日(木)24日(金)に44期生の地域活動体験ガイダンスで、地域活動先の説明をして卒業後の入会動機付けに努力した。

大津支部入会を期待して大津市在校生に会報「かけはし」の配布を継続した。

#### 2. 部会・サークル活動の充実と拡大

コロナ禍で制約を受けたが、部会活動等を通じて会員相互の交流は出来た。卒業式入学式

の花飾り活動では、ラッピングした花鉢を 24 小学校に届けて各学校から感謝された。

各部会及び知名度向上委員会の詳細は以下の通り。

#### (1)健康部会

2022 年度はコロナ禍での制限の中、実施出来たのはハイキング 1 回、室内スポーツ大会 1 回、グランドゴルフ大会 1 回のみであった。

期待に応えられなかったと反省している。

#### (2)文化部会

コロナ禍で市民陶芸体験講座の受講生・講師人数の縮小など対策を行いながら予定行事を遂行できた。作品展の開催では個人 58 名、団体 3 サークル、作品総数：105 作品となり、来場者 209 名と微増であったものの、出品の種類が多く充実した作品展にすることが出来た。

また、報道関係では大津市広報、朝日新聞や京都新聞、中日新聞、ZTV など多くのお知らせと放映があった。なお、平和堂石山、アル・プラザ堅田の「イキイキふれあい祭り」は定着してきたので、今後とも知名度向上と学生募集に効果を発揮できるよう継続していきたい。

またサークル活動は 7 ページの表にあるように、各サークルとも昨年より多くの一般市民の方を巻き込んで、活動を実施頂いた。

#### (3)研修部会

コロナ禍の波動的な流行の繰返しなどや夏季の高温推移などにより前年度未実施案件の企画・開催を予定していたが思うように進まなかった。

企画の開催時期、場所などを再考して次年度に反映して行きたい。愛荘町の近江上布伝統産業会館、びんてまりの館、草津キャンパスでの体験写経教室など参加会員からは好意的な評価を得ている。

健康部会との共催事業についても早々の実施で検討して行きたい。

#### (4)地域活動部会

活動自体が屋外作業であることから、コロナ禍が続く中でも今年度から再開される事業が増えた。昨年は中止の瀬田川一斉清掃、スッキリ士隊、市民ヨシ刈り等が再開、大津祭は曳山巡行が 2 年ぶりに復活した。

新にスタートした「びわ湖マラソン 2023」に 36 名が参加した。同窓会本部主導の「レイカディア大学同窓会の日（仮称）」が設定され大津支部は 10 月 18 日真野浜水泳場周辺清掃を行った。2023 年度からは正式に「レイカディア大学同窓会の日」として、毎年 9 月 22 日が 9 支部一斉清掃日に決まった。

#### (5)広報部会

コロナ禍であったが、「かけはし」は関係者の尽力で予定通り発行した。

特に広報部員及び配布先からの要望が高かったカラー化を 73 号から実施した。思惑通り期待以上の効果を感じた。カラー化はアンケート調査で高い評価を頂いた。又コストパフォーマンス面で成果を確認したので、更に編集に努力する。

#### (6)知名度向上委員会

平和堂石山、アル・プラザ堅田ほか展示会には監視員として参加し知名度向上に寄与した。

外部団体との協働で龍谷大学との交流が継続出来た。

また「大津っ子まつり」に参加することで地域との繋がりがスタート出来た。

### 3. 財政健全化

平和堂夏原グラント、大阪ガスグループ福祉財団の助成金、美しい湖国をつくる会の補助金、イオンギフト雑収入を活用し、会報「かけはし」のカラー化印刷の継続に繋がった。

#### 4. 人材の育成

コロナ禍の影響もあり、役員会の出席者が固定化されている。卒年期の若い世代から幹事に登用しているが、役員会に欠席者が散見され、課題を残した。

#### 5. 関連先と連携強化

大津市社会福祉協議会との連携から、

- ・「のぞみ会クリスマス会」の活動に参加して地域交流に繋がった。
- ・唐崎やよい作業所の陶芸支援を継続出来た。
- ・「大津っ子まつり」に参加して、子供向けイベント上演を受け持ち大津支部紹介の機会を得た。佐藤大津市長の来場を受けて、大津支部の活動紹介が出来た。  
会員の善意による陶芸品の寄付品を会場で販売した売上金は大津市社会福祉協議会を通じて赤い羽根共同募金に寄付した。
- ・6月～7月と1月～2月の2回、平和堂石山とアル・プラザ堅田の「イキイキふれあい祭り」で展示とイベント上演の活動に取り組んだ。  
平和堂の「イキイキふれあい祭り」は継続して開催出来ており、大津支部の活動紹介と学生募集に繋がった。同窓会大津支部と平和堂に「win-win」の関係を築けた。
- ・県社会福祉協議会の設立70周年記念式典で、大津支部は優秀ボランティアグループとして表彰を受けた。大津市社会福祉協議会の推薦によるところもあるが、大津支部会員の前向きな活動が評価された。

全体的に、コロナ禍で制約の多い中でも活動実績を残せたと評価できる。